

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200555
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園
事業所名	グループホームやすらぎの家
所在地	隠岐郡隠岐の島町城北町533番地3
自己評価作成日	平成22年1月5日
評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活が継続できる様に、利用者の方の思いを一番に考え、利用者主体の生活の支援を行っている開設5年10か月目のホームである。家族や地域住民のボランティアなどを通してホームの活動を支えている。利用者は外出や楽しみごとの多い生活を送っていて、目の前に広がる田んぼや町の様子などから季節を肌で感じ、ゆったりと自由な生活を楽しんでいる。利用者、職員が支え合いながら毎日が笑い声のあるホームである。「共生(ともいき)」の精神を基調に、ホームが地域の拠点となることを目指しホーム長と職員が一丸となって、安心して生活ができる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住民が気軽に立ち寄れるような民家風の玄関を入ると、明るく広々としたホールで、利用者がくつろいでいる。ガラス戸越しに、田園風景や、遠景には道を行き交う車や人が眺められる。隣接している民家の住民がホームを訪れて会話やお茶を楽しんだり町民とも日常的に交流している。職員は、利用者が楽しく笑顔で生活できるように、日常の中に楽しみ事を工夫しており、明るい雰囲気がある。地域の祭りへの参加や図書館、文化館などへの外出や買い物など、ホームに閉じこもることなく生活している。運営推進会議では、地域住民や行政関係者が参加してホームが地域の中にとけ込んでいく生活を進めようと取り組むとともに、町役場との関係作りにも心がけている。利用者は、民生委員など、外部者にふれる機会も多く、意見や要望が言える環境づくりにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解して業務の実践が出来るよう事業所に理念の掲示を行うとともに人事考課制度の中でも基本事項として掲げ実践の確認を行いフィードバック等で共有している。新任職員にも共有できるよう研修会を行っている。	地域のひととともに歩んでいくという理念は、新任研修で確認し、業務検討会やミーティングで復唱しするなど、常にフィードバックしながら職員全員の理解と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の馴染みの方との俳句や、おやつ作りで交流をしている。法人の保育園児やボランティアの踊り等積極的に受け入れ地域との交流を図っている。	直近では、隣接する住民のオカリナ演奏を利用者が楽しんだり、地域で開業している医師とコーラスをともにするなど、日常的に地域の人々との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の面会時やボランティアの方が来られた時などに尋ねられたら対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に開催している。ホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項は検討し、ホームの質の向上に向け取り組んでいる。	定期的に行われる運営推進会議では、利用者の状況の変化に合わせて、ケアのあり方や、必要な福祉用具についてなど身近な議題も取り上げられている。	利用者にとって地域が身近に感じられて充実した生活ができるような課題を設定してゆくことで、継続した話し合いがもてるような運営推進会議を今後も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修会や、介護教室などへの参加を通して交流を行い、ホームからも相談に出かけたりしている。	行政と職員は、顔の見える関係を築いており、日常的に利用者についての話し合いやホームのあり方などについての検討がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会、ホームでの身体拘束廃止検討会を組織し身体拘束に関しての検討をし、指針に基づいて対応している。業務検討会で日常的なケアの検討をしている。	普段行っているケアや家具の配置などが身体拘束に該当していないかを職員会議やミーティングなどで具体的に検討をしており、気づいた点は改善に向けて取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて職員全員が正しく理解し、具体的な援助行為について常に検証しながら、人権擁護と高い倫理性を持ったケアの実践を継続してゆかれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で法務局による人権全般についての研修会に参加したり、業務検討会で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での成年後見制度についての勉強会に積極的に参加する様に努めている。また、業務検討会でも話し合い、制度についての理解を深める様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書および重要事項説明書で丁寧に説明している。また重度化そして看取り等については指針に基づいて説明し、理解を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方に2～3か月に1回来てもらい、利用者の相談にのってもらい意見を施設運営に生かすようにしている。また家族からも要望等をひき出す様に努めている。	ホームを訪れる民生委員などが、利用者の意見をくみ取って職員に伝えており、運営に活かされている。家族や関係者がホームを訪れた際に、利用者の思いや家族の意見をうかがい、運営に反映されている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務検討会やミーティングにおいて職員の意見を引き出す様に努めている。年2回個人面談があり意見を聞き出す様にしている。	職員は、非常勤やパート勤務、また新任や若年者においても、職員会議やミーティングにおいて意見を出しており、それが活発に検討され、運営や業務の改善に反映されている。管理者による職員の個人面談を定期的に行い、意見の反映によるケアの向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は法人の人事考課制度で反映させ、職場環境においては職員衛生委員会で検討を行い、各自が向上心を持って業務を遂行できるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの評価は人事考課制度で力量の把握を行ったり、事業所内外で開催される研修はなるべく参加するよう促している。又専門職としてのライセンス取得に働きかけを行い専門職としてのレベルが保てるような取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新任研修を同業者間で行い、意見交換をおこなっている。また包括支援センター主催でネットワーク作りの会に参加して意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に事前訪問を行ったり見学に来て頂いたりしている。本人の思いに向き合い、不安や要望等に迅速に対応するようにしている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安なことや要望等をゆっくりと話しを聞いて受け止めて信頼関係を築いている。また、面会時には家族の思いや要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の思いや色々な状況を分析して問題点があればサービスの改善につなげる様努めている。業務検討会やミーティングで検討し、迅速に対応する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲んだり、食事をしたりして暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに努めている。笹まき作りなど利用者から教えてもらったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からグループで踊りなど慰問での訪問希望など快く受け入れている。利用者本人と一緒に支えるために、家族と同じ思いで支援できる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アルバムを持ってきてもらったり、昔からの知人や友人に会ったり、つながりが継続できる様に努めている。なじみの美容院に行ったり、希望の所にドライブをしている。	俳句を趣味とする利用者の趣味仲間が訪ねてきたり、利用者の地元への外出など、人や場との関係の継続への支援が行われている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々変化することもあるが、気の合う人と話したり、また音楽やゲームをして利用者どうしの関係がうまくいく様に職員も間に入って潤滑油の役割が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了の方や、他の事業所に移った方や家族から相談がある場合は、親身に相談して断続的な付き合いができるように心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で常に声をかけをするように心がけて本人の心身の状態を把握する様努めている。また、家族からの情報も得るようにして把握に努めている。	家族からは、面会の時をとらえて、意向や思いをうかがったり、排泄のことなど言葉にしづらい本人の気持ちを大切にしながら、適切な機会を捉えての思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、自宅を訪問したり、ホームに来てもらったりして利用者のこれまでの生活環境、趣味、思いなどを把握して、今までの生活に近い暮らしができる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活を総合的に把握していく様に話し合っている。申し送りや連絡帳等で利用者の小さな言動や心理面をみのがさないように情報を共有している。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見、思いを介護計画に反映する様にしている。介護計画やアセスメントについては、職員全員で検討する様にしている。	職員全員で1月毎に、介護計画を見直すとともに、随時モニタリングしながら、状況が変われば、ミーティングしたりと、適切に計画の変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意して、食事、水分量、排泄等の身体状況、またその日の精神状況など日々の暮らしの様子を記録して、いつでも職員が閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院等は家族と協力して行い、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との接点を見出すようにし、地域の婦人会や保育所園児との交流に努めている。又図書館を利用して本の貸し出しをして利用者の方に楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医になっている。受診通院はできるだけ本人や家族の希望に応じて、柔軟な対応に努めている。	認知症の方は、自ら正しく症状などを訴えないこともあるため、精神科医とも連携を密にしながら、本人、家族の望む医師への受診ができるよう個別に支援している。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は職員が見舞い状態把握している。退院後のホームでの対応については、医師、本人、家族、関係者との話し合いによりできるだけダメージを少なくしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応、及び医療連携体制に対する同意書を作成し、ホームでできる最大の援助方法を煮ついて説明をしている。	看護体制がないことから、本人、家族とは法人全体として対応できることを説明した上で、重度化や終末期のケアのあり方については、入所時から随時本人、家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関や消防署などの救急蘇生法等の研修会に参加してホームでも勉強会を行っている。緊急時対応マニュアルを整備して業務検討会で周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。避難通路の確認や消火器の点検等実施し防災意識を高める様にしている。町職員や地域代表者の方にも協力をお願いしている。	法人全体での非難訓練を定期的に行うだけでなく、毎月、利用者を変えた自主訓練を行なっている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助する時には、言葉かけやドアの開け閉めに留意しプライバシーの確保に徹底している。業務検討会においてプライバシーについて職員の意識向上を図っている。	排泄や移動、食事などで、援助が必要なときも、職員側の都合ではなく、まずは、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の理解力やコミュニケーションの能力に合わせた話しかけを行うようにしている。常に主体性を尊重し、利用者本人に決めてもらうような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れについては基本的なことは決めているが、利用者一人一人の体調や思いを尊重して、個別な過ごし方をしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等自分でされる方については職員は見守り時々助言する様になっている。介助が必用な方や自分で決めにくい方には、声かけしながら本人の意向に沿う支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食卓で食事をし、楽しい食事の雰囲気作りを演出している。片付けは利用者と一緒にやっている。	職員と利用者は同じテーブルで、和やかな雰囲気ですべてが出来るよう努めている。準備や片付けも、利用者の出来る範囲で、ともに行われている。	その日のメニューから利用者と相談しながら決めて、買い物、調理などにも利用者が自主的に関わってゆき、食事への関心をさらに、引き起こすような工夫を今後も期待したい。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事残量チェック表や水分摂取チェック表を使用して摂取量を把握する様に努めている。献立は主に法人の管理栄養士に作ってもらっているが嗜好も献立に入れる事がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。地域での口腔ケアの研修会に参加して全職員が口腔ケアの重要性について認識するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力でトイレ使用される方には、声かけ見守りをしている。時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行っている。排泄パターン把握に努めている。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切に、職員も同じトイレを使用しながら、汚れた場合はさりげなく掃除している。パット交換なども、羞恥心に配慮して、自室で行うこともある。促しの声かけも他の利用者にそれと悟られないよう、さりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては、下剤を使用しているが、できるだけ食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫をしている。日中は、身体を動かす様にするために体操などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴を実施して、希望に合わせて入浴をしている。介助が必要な方には、安全面に気を配り、その人に合った入浴用具を工夫して入浴をしてもらっている。	入浴したい日や時間は、利用者の希望に合わせている。入浴は大切なコミュニケーションの時間と捉え、利用者の思い出話などをゆっくりとかがう機会とするなど、くつろいだ気分で、入浴できるよう支援している。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や表情等に気を配って作業や体操、音楽など日中の活動を多くするようにしている。眠れない方については、居室やダイニングで一緒に過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容(用法、用量、副作用など)が書いてある用紙を貼り、職員全員が理解できるようにしている。内服薬変更時は申し送りや連絡帳で確認徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作りや、食事の後片付け、洗濯たたみなど各自が得意の力を発揮してもらい働きかけしている。そういった機会は、利用者同士、職員とのコミュニケーションが深まる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や紅葉見学は、希望の日に行ったりしている。家族に連絡を取って自宅の庭を見に帰る事もあります。希望時に買い物と一緒にいき、本人が選んで買い物をしている。	ホームの周辺への散歩は、日常的に行われている。買い物や、催し物へのドライブなども、利用者との話し合いの中から、行き先をきめるなど、戸外へ出掛けることを積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の出し入れができる人については、買い物などで使ってもらい、出来るだけ地域での社会生活が継続できる様に支援している。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があったり、本人希望時は自分の部屋で子機を使い、話しやすい様にしている。自分で携帯電話を使用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルーム等には、常に季節の花や観葉植物を置いて居心地の良い環境作りに努めている。利用者の好みに配慮した心地よい音楽を流して、リラックスできる様にしている。	季節の花や外の光、食事の匂いや、地元の民謡などと、利用者の五感にほどよい刺激になるような配慮がみられた。	食堂や居間は一体的なつくりで、全てが視界に入りやすく多少の圧迫感がある。椅子やテーブル、ついたてなどを工夫する等、一人や二人でも落ち着いてくつろげるスペースづくりなどにも、取り組みを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ椅子の位置を検討して、一人で過ごしたい方は一人でゆっくりできるようにしている。仲間同士で歌ったり会話できる様に楽しみのある環境づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、なじみの物や好みの家具を置いてもらう様にしている。家族と一緒に写った写真などを飾ったりして、居心地のよい居室になるよう配慮している。	利用者とともにしつらえられた居室は、寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれており、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人一人の歩行状態に合った歩行器やおし車、杖を検討して安全面に気を配っている。衣類整理は本人に合わせて使いやすいタンスを利用して、整理している。		